

施策番号	225	施策名	観光の振興	令和4年度主管課名	産業観光課
総合計画体系	政策名	2	地域経済を支える里づくり	令和4年度課長名	小椋 正己
	関係課名	生涯学習課		シート作成者	石田 和之

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度
ア	町内への来訪者(観光客)	→	ア	千人	見込値			16,957	16,957	16,957
						実績値	16,957	16,957	16,881	
イ		→	イ	回	見込値			5	5	5
						実績値	0	0	3	
ウ		→	ウ		見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度
ア	多くの観光客に来町し滞在し消費してもらおう	→	ア	千人	目標値	1,100	800	825	850	900
					実績値	729	790	948		
					達成率	66.3%	98.8%	114.9%	111.5%	105.3%
イ		→	イ	千人	目標値	30	20	21	22	24
					実績値	18	17	25		
					達成率	60.0%	85.0%	119.0%	113.6%	104.2%
ウ		→	ウ	人	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
					実績値	0	0	25,500		
					達成率	0.0%	0.0%	51.0%	51.0%	51.0%
エ		→	エ		目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方		直接的に判断が可能な観光客入込客数により成果指標を設定。町内各施設からのデータを町が集計し、集計対象、集計方法を明確にして、継続的に実施※H19より集計方法変更(年間入場者数調べー各観光施設報告実績を全て加算したものー延べ人数)最大の誘客を誇るもみじ祭りは集計が推計値				⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		観光客入込客数 延べ宿泊数 (鏡野町内観光客入込調査)		

2. 施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民は、町内の観光資源を理解し、広くPRすることに努める。</li> <li>・町民は、町内の各種観光イベントに積極的に参加するよう努める。</li> <li>・観光事業者は、積極的な営業活動を行い、地域の活性化に努める。</li> <li>・観光協会は、観光資源の開発・売り込みや、観光資源のPR活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源を活用した町内周遊コースの創出や観光協会をはじめ関連機関との連携による積極的な観光客へのPRを行う。</li> <li>・観光客が安全・快適な観光を行うための環境づくりを行う。</li> <li>・観光団体や観光ボランティアへの育成・支援を行う。</li> <li>・観光事業者が実施するコミュニティビジネスに対しての支援を行う。</li> </ul>

3. 評価結果

4年度の評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か?その要因は?)	
	観光入込客数は、コロナ禍のため目標値を下げたことにより、上回ったもののコロナ前までは回復していない。ただし、コロナ過で、自然志向の高まりにより自然スポットへの来場者は横ばいもしくは一部増加となっている所がある。また、9月の産業まつりより、イベントが再開できたことによる影響も大きい。宿泊客数については、コロナ禍から回復しつつある。	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?)	
	近年の自然志向の高まりにより、自然スポットへの来場者が横ばい若しくは一部増加していることや9月の産業まつりより、イベントが再開できたこともあり、観光入込客数や宿泊客数の回復に繋がっている。しかしながら、近年は異常気象により、プランやイベントの中止、温暖化による雪不足など、経営リスクが高まっており、観光施設の修繕工事等を行い魅力向上を図っているものの、コロナ禍前までに回復することは難しくなっているが前年度よりは向上している。	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
	コロナ禍における観光客の減少にも歯止めがかかり、回復傾向にあると推測される。また、その中でも、自然スポットや施設については、自然をメインとしたアクティビティ体験などの組み込まれた旅行需要の高まりが感じられる。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
	町の重点施策である「健康」をキーワードに、地域資源を活かしたエコツーリズムを推進する国の補助事業を受けて、「健康の町かがみのプロモーション本部」が中心となり、一体的なPR・プロモーションに取り組んできたところであるが、コロナ禍により、関西等県外PRイベントやプロモーション活動が中止となっていたが、4年度より再開でき、戦略的な情報発信や会員制ファンクラブの運用、受入環境整備を進めた。文化・スポーツ施設の合宿補助金の実績などは、国民宿舎いつきの閉館もあり、昨年同様に低い水準となった。	
	3. 施策の振り返りと総括(4年度の事務事業や取組の成果は?うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
	① 施策の成果向上につながった主な事務事業	高清水トレイル経営管理費
	② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	鏡野町文化・スポーツ合宿補助金
	③ 施策全体の振り返りと総括	
	町の重点施策である「健康」をキーワードに、地域資源を活かしたエコツーリズムを推進する国の補助事業を受けて、「健康の町かがみのプロモーション本部」が中心となり、一体的なPR・プロモーションに取り組んできた。しかしながら、コロナ禍により中断を余儀なくされたが、4年度より、再開し、観光客も回復傾向に至った。また、コロナ禍により、自然アクティビティ体験やキャンプの需要が高まったため、この機を活かして、戦略的な情報発信を行いながら、自然アクティビティ等の受入環境整備などを整えたことにより、利用者数も向上した。しかしながら、文化・スポーツ施設の合宿補助金についてはコロナ禍の影響があり、前年同様に低い水準となった。	
	4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
	① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	健康の町かがみのファン創出事業
	② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
	コロナ禍により観光産業は大きな打撃を受けており、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新しい観光戦略が必要であり、安心・安全な受入環境の構築は勿論のこと従来の観光需要だけに頼らない観光振興の構築が課題である。また、鏡野町の強みである健康素材のブランディングを進め、自然環境を活かしたエコツーリズムの推進による受入環境の充実を図ると共に美しい水に抱かれた森林や農林水産物、温泉等を活かした地域資源の商品化を進め一体的なPR・プロモーションを展開するなかで、かがみのファンクラブ会員も増加しているが、季刊パンフレットの発送などの経費も膨らんでいるため、DMIに切り替えるなどデジタル化していくことが必要である。	